

1995

千葉県建築文化賞

第二回表彰作品集

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 沼田 武

第二回を迎えました千葉県建築文化賞に、多くの皆様方からのご応募をいただき、感謝申し上げます。

さて、平成7年度は、「さわやかハートちば5か年計画」の総仕上げの年として、計画達成に向け積極的に事業展開を図ってまいりました。

この5か年計画においては、日常生活に彩りを与える空間の整備、コミュニティの形成、高齢者・障害者への配慮など、自然と調和しつつ、県民が快適に暮らせる心地よい空間の整備を重要な事業として位置づけ、各種事業の展開を図ってきたところです。

こうした事業の一貫として、平成6年度に創設した「千葉県建築文化賞」は、建築文化、居住環境に対する県民の認識を高め、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを進めていくことを目的に、社団法人千葉県建築士会をはじめとする関係団体等の協力のもとに実施しているものであります。

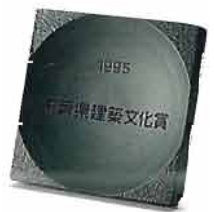
今回は73点の応募があり、選考委員の方々による4日間の現地調査を含む厳正な審査の結果、優秀と認められた「景観に配慮した建築物」及び「高齢者や障害者に配慮した建築物」それぞれ3点が表彰作品として選ばれました。

いずれの作品も21世紀を展望するまちづくりを先導する質の高い優れた建築物です。

平成8年度からは新しい千葉県を創造する「千葉新時代5か年計画」がスタートいたしますが、この新5か年計画においても、高齢者、障害者等が円滑に利用できるバリアフリー施設の普及推進、良好な景観形成の促進を県の重要な事業として位置づけており、千葉県建築文化賞がこれからもまちづくりの一翼を担い、優れた建築物を創出するための励みとなる表彰制度として、多くの県民の皆様を支えられ発展していくことを願っております。

終わりに、今後とも県民の皆様をはじめ、関係者各位のご理解、ご協力をいただけますようお願い申し上げます。

平成8年3月



総評・選考経過

選考委員長 守屋秀夫

第二回目となる建築文化賞に対して今年も多くの方々からご推薦をいただき、応募総数は73件(建築数では69点)となった。応募建築物の所在も全県下に広がっており、建築主、設計者などの関係者ばかりではなく、一般県民からの推薦も多かった。

審査は、まず推薦理由と写真などが貼付された応募図書を会場に展示し、各委員がこれらを一覧した後、賞の部門別に2段階の投票を繰り返す、討議を経て、計19点の建築物を選んで現地審査の対象とすることにした。現地審査は、すべてウィークデイの昼間に訪問し、それぞれの施設が本来の姿で活動している様子を見せてもらうようにした。なお、現地の審査に当たっては、現地の案内等に千葉県建築士会の会員のご協力を得た。

最終審査は、現地審査の報告のもとに全委員で討議を行い、話し合いによって表彰建築物を決定した。今回も、景観に配慮した建築物と高齢者、障害者に配慮した建築物というテーマのもとに募集を行ったが、このような配慮があるばかりでなく、そのことを除いても建築文化の発展を担う優れた建築物であることを選考の基本とした。

景観に配慮した建築物

今回は、自然を背景として建物の自然景観との調和を図ったものばかりでなく、市街地にあって近隣との町並み景観を配慮した作品が少なくなかった。

景観一般建築物の部門では、「千葉市美術館・千葉中央区役所」が市民にとって貴重な遺産である旧川崎銀行の建物を巧みに保存しながら、新しいランドマークを作った点が高く評価され、幕張の新住宅地に建てられた「千葉市打瀬小学校」が街の人に開かれたかたちの学校として提案され、児童ものびのびと生活している姿が感慨深かった。

これに対し、「千葉県薬草園研修館」と「千葉県いすみ環境と文化の里ネイチャーセンター」はいずれも好感の持てる建物ではあるが、

デザインの密度に今一步のもの足りなさが感じられた。

景観住宅の部門では、幕張新都心住宅地区(幕張ベイタウン)にパティオスの名称で作られている一連の集合住宅街区のうちすでに完成した6つの街区がそれぞれ応募された。

しかし、審査の過程で、これらの住宅棟は街区型の町並みをつくるよう申し合わせて設計しているため、6街区全体で一つの作品として扱うことにした。そして、このような形式の住宅団地はわが国では新しい試みであり、将来を示唆するものとして表彰することとした。

高齢者、障害者に配慮した建築物

老人・福祉関係の施設の応募が多かったが、一般の建築物で障害者の利用にも配慮が行き届いている作品がもう少し増えることを期待したい。

高齢者、障害者一般建築物部門では、「雇用促進事業団ポリテクセンター千葉研修寮」は、健常者に混じって歩行障害者ばかりでなく視聴覚障害者も収容し、しかも個室と教養室の両方を用意しながら障害者対応をさりげなくデザインしている点で評価された。「厚生年金サントール千葉」は、有料老人ホームであるが、娯楽施設や医療施設も整っているばかりでなく、格調の高い雰囲気をもたせているところがよい。

高齢者、障害者住宅部門では、「鋳持邸」を半身不自由のご主人の生活に配慮しながら、小住宅の気品も大切にしている設計への取組を評価して表彰対象に選んだ。「渡辺京子邸」も半身不自由のご老人が一人で留守居をしながら趣味の美術制作に打ち込めるよう配慮された住宅であり、「渡辺資二郎」は将来障害を負ったときのための準備を今から整えておくという発想の住宅で、見習うべきところもあり、ともに入賞に準ずるものとみてよいであろう。